

平成20年度会津坂下町管理橋梁点検結果

1. 点検実施橋梁

平成20年度に実施した橋梁点検（全6橋）の、橋種別等の集計を図-1に示す。

橋長はすべての橋梁が50m以上となっている。

橋種は鋼橋が5割、PC橋が2割弱、RC橋が3割強となっている。

架設後経過年数は20～29年が2割弱、30～49年が5割、50年以上が3割強となっている。

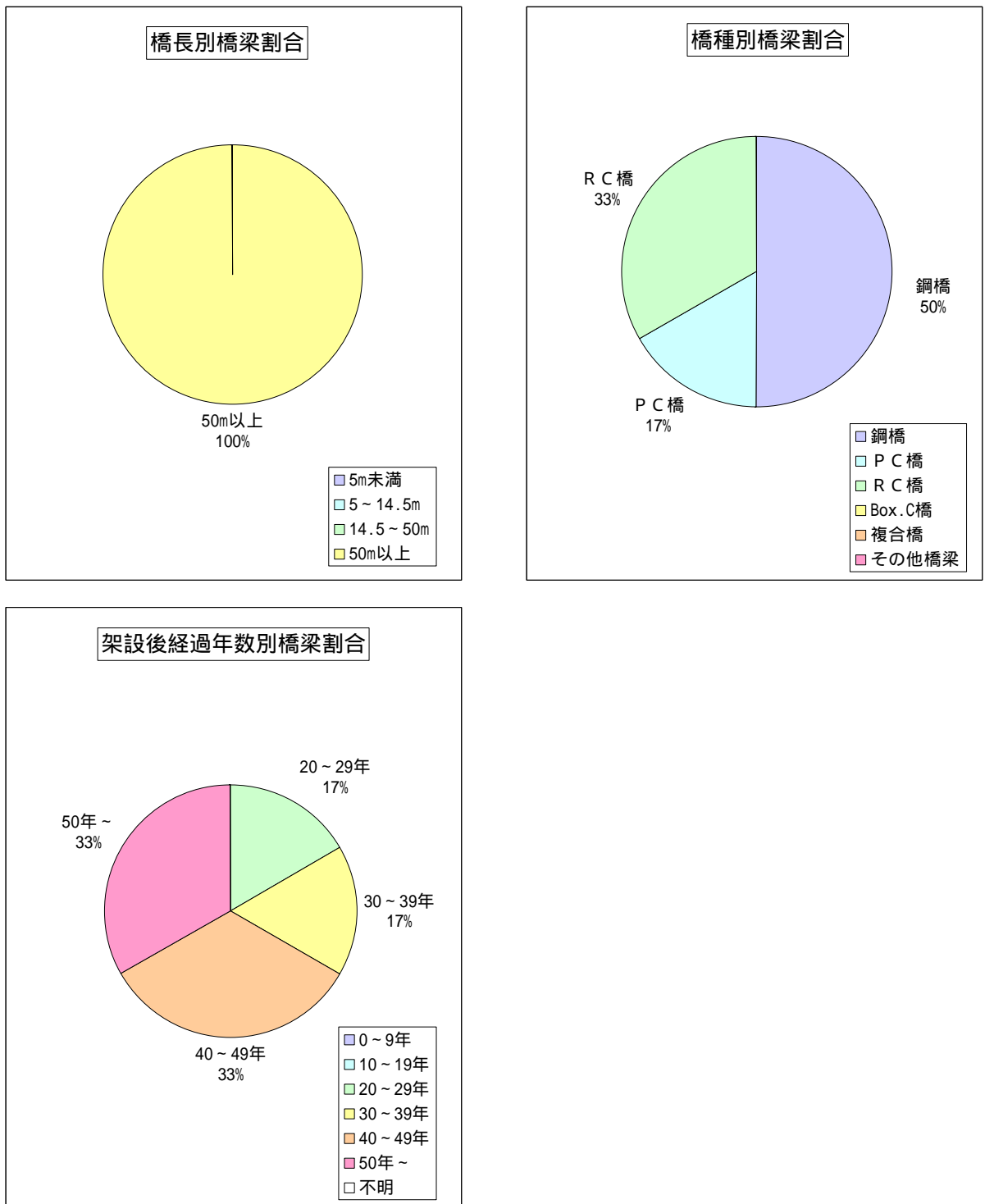


図-1 平成20年度橋梁点検の内訳

2. 損傷状況

平成20年度点検橋梁の損傷については以下の傾向が見られる。

橋梁主構造（上部工、下部工）の損傷が8割程度で見受けられる。

（全6橋、損傷橋梁5橋、割合83％）

路面の凹凸、舗装の異常及び高欄・防護柵の損傷が8割程度で見受けられる。

（全6橋、損傷橋梁5橋、割合83％）

（1）鋼橋

緊急保全または予防保全が必要な損傷のあった橋梁は3橋あり、鋼橋全体（3橋）のうち、100％にあたる。

表 - 1 鋼橋の損傷内容

橋種	部材	損傷	箇所数
鋼橋	桁	腐食	0
		亀裂	0
		ボルト脱落	1
		破断	0
	床版	ひびわれ	3
		鉄筋露出	0
		抜け落ち	0
	下部工	ひびわれ	3
		鉄筋露出	0
		変状	0
	支承	機能障害	0
	伸縮装置	損傷	1
	損傷数		8
	実橋梁数		3
点検数		3	
損傷率		100%	

鋼製床版については、桁部材に含む。

（2）PC橋

緊急保全または予防保全が必要な損傷のあった橋梁は0橋あり、PC橋全体（1橋）のうち、0％にあたる。

表 - 2 PC橋の損傷内容

橋種	部材	損傷	箇所数
PC橋	桁	ひびわれ	0
		鉄筋露出	0
		定着部異常	0
	床版	ひびわれ	0
		鉄筋露出	0
		抜け落ち	0
	下部工	ひびわれ	0
		鉄筋露出	0
		変状	0
	支承	機能障害	0
	伸縮装置	損傷	0
	損傷数		0
	実橋梁数		0
	点検数		1
損傷率		0%	

(3) R C 橋

緊急保全または予防保全が必要な損傷のあった橋梁は2橋あり、R C 橋全体 (2 橋) のうち、100%にあたる。

表 - 3 R C 橋の損傷内容

橋 種	部 材	損 傷	箇所数
R C 橋	桁	ひびわれ	2
		鉄筋露出	0
		定着部異常	
	床 版	ひびわれ	2
		鉄筋露出	0
		抜け落ち	0
	下部工	ひびわれ	2
		鉄筋露出	0
		変 状	0
	支 承	機能障害	0
	伸縮装置	損 傷	2
	損 傷 数		8
	実橋梁数		2
点 検 数		2	
損 傷 率		100%	

(4) ボックスカルバート橋

緊急保全または予防保全が必要な損傷のあったBox.C橋は0橋あり、Box.C橋全体 (0 橋) のうち、0%にあたる。

表 - 4 ボックスカルバート橋の損傷内容

橋 種	部 材	損 傷	箇所数
Box.C橋	桁	ひびわれ	
		鉄筋露出	
		定着部異常	
	床 版	ひびわれ	0
		鉄筋露出	0
		抜け落ち	0
	下部工	ひびわれ	0
		鉄筋露出	0
		変 状	0
	支 承	機能障害	
	伸縮装置	損 傷	
	損 傷 数		0
	実橋梁数		0
点 検 数		0	
損 傷 率		0%	

(5) その他橋梁

緊急保全または予防保全が必要な損傷のあった橋梁は0橋あり、
 その他橋梁全体 (0橋) のうち、0%にあたる。

表 - 5 その他橋梁の損傷内容

橋 種	部 材	損 傷	箇所数
その他	桁・床版	腐 食	0
		亀 裂	0
		ボルト脱落	0
		破 断	0
		ひびわれ	0
		鉄筋露出	0
		抜け落ち	0
	下部工	ひびわれ	0
		鉄筋露出	0
		変 状	0
	支 承	機能障害	0
	伸縮装置	損 傷	0
	損 傷 数		0
	実橋梁数		0
点 検 数		0	
損 傷 率		0%	

(6) 橋面

路面の凹凸、舗装の異常、高欄損傷のあった橋梁は5橋あり、
 橋梁全体 (6橋) のうち、83%にあたる。

表 - 6 橋面の損傷内容

橋 種	部 材	損 傷	箇所数
全 橋	路 面	凹 凸	2
		舗装の異常	0
	高 欄	損 傷	5
	損 傷 数		7
	実橋梁数		5
	点 検 数		6
	損 傷 率		83%